

社会科学のフィールドワーク教育：  
掛川市大須賀地区でのフィールドワーク実習（フ  
ィールドワーク教育年次報告）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 達也 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00010120">https://doi.org/10.14945/00010120</a>

# 掛川市大須賀地区でのフィールドワーク実習

社会学科・文化人類学コース 山本 達也

## はじめに

文化人類学コースでは、毎年5月から6月に1週間ほど静岡県内の調査地に泊まり込み、その土地の暮らしや社会について学ぶフィールドワーク実習を実施しています。参加するのは本コースに在籍する学部3年生です。調査地は教員が選定しますが、その後は学生が文献資料を収集し、現地を下見するなど事前準備を進め、自らの関心に沿って問いをたて、調査にのぞみます。今年度は、横須賀城址や清水邸といった観光地を有し、静岡県内でも幅広く消費される「さしすせそ」の生産などの様々な魅力にあふれた掛川市大須賀地区を訪問しました。

## 1年かけてじっくり取り組む

調査期間は1週間ながら、フィールドワーク実習は、現地に滞在する1週間だけで完結するものではありません。2年生の後学期からの学習や下準備、調査、報告書作成まで含めて1年半以上をかけてじっくり取り組みます。まず、前年度にコースの教員が話し合い、翌年の調査地の候補を決め、当該地区に調査受け入れを依頼します。その際、1週間を通して滞在できる宿泊施設と、自習やミーティングができる学習スペースを確保する必要があり、それには地元の方々のご協力が不可欠です。

調査地が決定し、学生に告知するのは後学期に入った10月末頃です。その後、学生たちは「文化人類学調査法」という授業のなかで、翌年のフィールドワークの準備を進めます。文化人類学調査法は、フィールドワークを経験した3年生と、これからフィールドワークを実施する2年生が合同で参加する演習科目です。授業のなかで2年生は、先輩や教員からアドバイスを受けながら、調査地について文献などで調べ、調査テーマを考えてゆきます。春休みには現地の下見のほか、県立図書館や地域の図書館、市役所などを訪れ、文献や統計、地図など、調査地に関するより詳しい資料を収集します。年度が改まる4月、3年生となった学生たちは調査テーマを決定し、これをもとに班を編成します。今年は、大須賀地区の教育、風づくりや儀礼の伝承、地酒の生産について調べる「伝承・継承班」、三熊野神社大祭について調べる「祭り班」、地域に根ざした農業のあり方や醤油の生産、地酒を取りまく関係性について調べる「生活と生業班」、砂糖や町並み保護、清水邸の活用などを通した町おこしと防災を通した町づくりを調べた「まちづくり・まちおこし班」に分かれました。これらの班と個人テーマを記載した文書を、町内会の回覧板で回してもらい、地元の方々に調査協力をお願いしました。

## いよいよ調査実施

こうして準備を整え、2016年5月30日から6泊7日の現地調査にのぞみました。調査に参加したのは、教員2名と学生17名の計19名です。調査の初日には、大須賀市民交流センターに地元の歴史や文化、生業に詳しい方々に集まっていただき、学生からの質問に答えてもらうという場を設けました。私たちはこれを「お見合い」と呼んでいます。ここで学生たちは、話を聞かせていただいた方にもう一度アポイントメントを取ったり、知り合いの方を紹介していただいたりして、自分たちで翌日以降の予定を立ててゆきます。

調査を進めてゆくうちに、学生たちはたいてい壁にぶつかります。予想とは異なる調査地の状況に困惑したり、聞き取り調査で得た膨大なデータをどのようにまとめたらいのか悩んだり、設定した

テーマのとおり調査が進まず立ち止まったりと、その壁はさまざまです。それでも学生たちは仲間や教員に相談したり、地域の人々に再度聞き取りをしたりしてその壁を乗り越え、自分なりに答えを出してゆきます。実習の最終日である6月5日には、大須賀市民交流センターにて現地発表会を開催し、そうしてまとめた成果を地域の方々に聴いていただきました。



地域の方々に向けた現地発表会

### 成果を地域にお返しする

大学に戻ってから10月までは、報告書の原稿を執筆する期間となりました。報告書では、各自で調べたことをまとめるだけでなく、文化人類学的視点で分析し、結論を導き出すことを目指します。原稿を書き上げた後は、学生自身で編集作業をおこない、12月までに報告書を完成させます。出来上がった報告書は県内の公立図書館、全国の文化人類学コースを有する大学のほか、大須賀地区で調査にご協力くださった方々全員に発送しました。研究成果をお返しすることで、地域の方々から受けたご厚意に少しでも応えることができれば、と考えているからです。報告書の内容は静岡大学学術リポジトリにも登録し、インターネットでも閲覧できるようにしています。12月中旬には社会学科の学生研究発表会で、大須賀地区の中でも特に横須賀の事例に着目して「横須賀の文化を繋ぐもの」というタイトルで発表し、最優秀研究賞をいただきました。また、1月には社会学科代表として人文社会科学部学生研究成果発表会で発表し、表彰されました。

### おわりに

大須賀地区でのフィールドワークは、たくさんの方々の支援によって実施することができました。遠州横須賀倶楽部の皆さんや(株)伊勢屋肥料農材の石津康好さん、宿泊先の八百甚さんには、学生の聞き取り調査にご協力いただくとともに、地図や文献など貴重な資料を提供していただきました。紙幅の関係上、お名前を申し上げられなかった皆様にも、この場で厚くお礼を申し上げます。また、前年度に引き続き、人文社会科学部の学部長裁量経費により、フィールドワークの諸経費を援助していただいたことに感謝いたします。

フィールドワークを通して学生たちは、ただ知識を得ただけでなく、じっくり話を聞いて理解し、自分で考え、人に伝えることの難しさと大切さを学びました。こうした経験は彼／彼女らが卒業して社会に出たときに、貴重な財産となって活かされることでしょう。